



### 静岡県山岳連盟

〒420-8076  
 静岡市駿河区八幡3-1-17  
 TEL (FAX) 054-288-7512  
 編集発行/総務委員会  
 平成26年3月18日発行

## 11月常任理事会

11月25日(月) 静岡労働会館で常任理事会が開催された  
 出席者 滝田会長ほか17名  
 滝田会長から、5月の総会で決定した事業計画の中で、9月にスポーツフェスタを天候が悪い中実施しました。今後、11月30日に中級セルフレスキュー、12月竜爪登山大会、2月冬山講習会が予定されているが順調に進めて欲しいと挨拶。

- ①各委員会報告
- ②国体委員会 第68回国体が東京都東久留米市で開催、成男と少男が出場、成男リード30位、ボルタリング34位。少男、ボルタリング6位入賞、リード9位。
- ③スポーツフェスティバル 9月7日〜8日 初日、3コース雨降りのため心配したが3時半予定通り宿泊施設に入れた。2日目は、日帰りの参加者70名(工藤)
- ④自然保護指導員研修会 自然保護委員総会が4

- 月14日〜16日に開催され出席した。(豊田)
- ④海外委員会 総会に出席した。(出利葉)
- ・海外トレッキング講座(全3回)開催します。期日 2月17日・24日・3月3日
- ⑤中高年安全登山講習会 9月21日〜23日の3日間、愛知県新城市で開催、37名参加しナビゲーション技術を中心に机上と実地講習を受けた。(木ノ内)
- ⑥各委員会の事業予定 初級・中級セルフレスキュー研修会
- ⑦中級セルフレスキュー研修会 11月30日興津生涯交流館で開催します。
- ⑧初級セルフレスキュー研修会 2月または3月に実施計画中(堀内)
- ⑨第15回竜爪山岳競技会 12月15日(日)実施します。参加者全員に保険を掛ける旨了承された。高校の参加校が増えたが、成年の参加者が少ない。運営委員と器具類の準備が必要 (清水)
- ⑩平成25年度指導員研修会 平成26年1月26日 9時から11時30分(静岡リハビリテーション専門学校)

- ⑪冬山登山講習会 平成26年2月1日〜2日 場所は、御殿場、富士山、二子山周辺
- ⑫第7回ボルダリング競技会 平成26年2月22〜23日 会場 クライミングジム ジャム静岡⇒袋井「クライミングジム クラネット」
- ⑬ボルダリング・ジャパノカップ 会場 クライミングジム ジャム静岡。2月22〜23日(日)開催。協力の要請があった。
- ⑭平成26年度県岳連カレンダー 80部あります。
- ⑮その他
- ⑯第27回海外登山女性懇談会 開催について、平成25年山岳レスキュー講習会(積雪期・東部地区)開催要項が来ています。
- ⑰山岳遭難防止アドバイザリー(案内)が、長野県遭対協からあり。
- ⑱平成25年度競技部プロック別研修会開催は岐阜県。
- ⑲平成26年度「山岳保険」の保険料の改定通知がありました。(前川)

## 2月常任理事会

日時平成26年2月24日 場所 労働会館 5F会議室  
 出席者、滝田、塩沢、木ノ内、前川、豊田、工藤、増田、大石、長野、諸戸、田中、清水、高橋、坂田、計(17)名  
 会長挨拶  
 ①岳連カレンダーの配布が完了。  
 ②総会に向けての各委員会の準備を宜しくお願いします。

- ③報告事項
- ④指導委員会
- ・冬山講習会実施、8名参加、積雪もあったが雨で難儀した、高校生参加者は事前の準備不足を感じた。
- ・指導委員研修会で長野県で実施のヘルメット着用と携帯トイレについて意見交換。
- ⑤高体連ボルダリング競技会実施、45名参加した。
- ⑥竜爪山岳競技会は30名参加、人数が多く計測できない事態が生じた。来年度は人数制限が必要か、運営が大変で検討要す。

- ⑦遭対委員会
- ・レスキュー講習会実施、中級に28名参加、天気良好で無事終了した。
- ⑧日山協代表者会議報告
- ・高体連が日山協に入会した。
- ・全国山の日の活動16年から実施する。
- ・全日本トレラン協議会が発足する、日山協も協力する。トレラン競技の安全基準必要。
- ・山岳共済制度に付いて、東京都岳連では、個人登録制度あり1人6千円。
- ⑨海外委員会
- ・海外トレッキング講座、2月17日、3月3日、10日実施。
- ・海外登山報告会参加
- ・ボルダリヤパンカップの報告
- ⑩2月22日、23日静岡で開催、日山協の要請で5名がドーピングのシャペロン業務に協力した。
- ⑪協議事項
- ⑫セルフレスキュー研修会
- ・中級は11月30日実施。
- ・初級を3月8日に実施予定。
- ⑬指導委員会26年度計画
- ・危険地域でのヘルメット着用、携帯トイレの持

- ⑭参加について、ストックの活用について。ヘルメットの着用習慣が大切、ストック活用のメリット、デメリットを明確に。
- ⑮少年少女登山教室
- ・富士山は手間が掛かる、本年度は低山で実施。
- ⑯登山教室
- 今年度は鹿島槍で実施、座学4回、実践登山2回、人員10〜15名募集。
- ⑰岳連の活動
- ・活動が良く分かるように、形式を新しい方式に。
- ・岳連の活動に対する交通費に関しては実費を補償したい。
- ⑱26年度通常総会
- ・5月10日13時30分から、もくせいの会館で実施。
- ・プロックの常任理事を3月20日までに事務局へ。
- ・各専門委員会、会計は資料を4月5日までに提出。
- ・役員改選については次回常任理事会で検討する。
- ・岳連カレンダーは来年度は部数削減したい、300部を計画したい、本年度の実績は資料参照。(坂田)

# 冬山技術の基礎習得

## 平成25年度冬山講習会

平成25年度冬山登山講習会・指導者講習会が2月1日〜2日、富士山御殿場口新五合目・双子山周辺で開催された。  
 参加者は受講者が高校生54名、一般初級5名、中級5名、顧問・指導者8名、講師、本部員を合わせて92名であった。

開講式では滝田会長、県学校教育課長の挨拶があり、指導委員長から講習における怪我や体調管理について緒注意の後、講習を開始した。

1日目は、晴で無風の天候のなか、初級と高校生は、新五合目周辺のテント場で冬山のテント



(テントの設置)

の設置方法から始まり、冬山での服装、装備品の点検・確認、凍傷、低体温症などの注意、雪上歩行、アイゼン無しの滑落停止練習などの実習を行った。中級は、双子山裾の谷で滑落停止、ピッケルによる支点の取り方等、確保技術を中心に実施した。

2日目は、強風のため高校生は幕営地からの道路で耐風姿勢の訓練を行っ

## 日山協代表者会議報告

### 高体連加盟へ、「山の日」祝日に

全国代表者会議が、去る2月16日(日)に東京都で開催されました。会議に先立ち日山協の神崎会長から挨拶があった。主な内容は3点に絞られる。第1点目は、日山協が東京都岳連を退会した。この結果、日山協は、日体協への加盟もなくなり、スポーツ行政から抜けることとなった。第2点目、高体

た。初級と高校顧問は、ピッケル、アイゼンを使っている歩行、耐風訓練、滑落停止などを、双子山の側面から実践的に行った。途中から曇りとなり、時々強い風も吹いたが、熱心に予定時間一杯まで練習した。

閉講式の講評では、冬山に来る前に、使用する服装、装備の点検調整の大切さや、この練習は冬山技術習得の初め一歩であって、これから訓練を積んで冬山の初級コースから冬山を楽しんでもらいたいとの話があった。終了した。(工藤・前川)

連が日山協の48番目の正会員として加盟することになった。加盟高校山岳部の生徒は、日山協へ選手登録することになり、登録料は一人千円となる。納められた登録料の一部は、全国高体連登山専門部に還付され、安全登山の普及啓発やインターハイの運営費等に充てられる。なお、選手登録していない生徒は、日山協主

催の全ての競技会に参加出来ない(県予選を含む)とのこと。これに関連して、新年度事業として、医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査を実施することになった。第3点目、全国「山の日」を8月11日として定める、祝日法改正案が議員立法の方向で進められており、2016年から実施される見込みであるとのこと。なお、会長からの苦言として、次の言葉が述べられた。

『全国高等学校選抜クラ イミング選手権大会へ参加した選手のマナーが非常に悪かった。』とのことであった。このようなことから、選手は、競技力の向上を図ることは当然のことながら、選ばれた人として、人間としての礼儀とかマナーを身に付ける必要があると思っ

た。今回の代表者会議は、定款上の議決機関ではないため、新年度の事業計画や予算についての審議は行われず、尾形専務理事から主要事業の説明を受けた後、全国から集まった出席者から、日山協に

対する質疑や意見、要望を受ける時間が多く設けられた。出された意見要望の主なものは、次のとおりです。

- ①山岳共済の割引率引き上げ要望について
- 現在日山協は、損保会社と団体契約を結んでおり、各種の割引を含めて52%の割引を受けているので、今以上の割引は出来ない。なお、山岳共済は、国内登山を主体に考えているので、6km以上の山の登山は対象外となる。
- ②トレラン大会への日山協の関わり方について
- 全日本トレラン競技連絡協議会設立に日山協も協力していく。また、トレラン大会の安全基準のための調査研究を新年度事業で行う。
- ③個人登録制度の導入
- 日山協としても取り入れて行きたいとのこと。

(東京都岳連は、現在600名の個人会員がおり、年会費を6千円徴収している。優遇策として、無料講習会や山小屋、登山用品の割引サービスがあり、人気が高いとのことである。(塩澤)

# 中級セルフレスキュー研修会

## ロープワークと登山用具の活用

平成25年度中級セルフレスキュー研修会が11月30日興津生涯学習交流館で開催し、加盟団体から23名の参加者があり、講師(指導員等)4名の研修会となった。

参加者は、せっかくの機会であるので他の会との交流を含めて、3グループに分かれて始まりまし



午前中は、コンテのタイトロープの設置法とリーダーのポジション、安全のためにフイックスロープを設置する方法。午後は、通常登山用具のセルフレスキューでの活用、軽量でコンパクト

なセルフレスキュー用具と活用法の検討を行いました。天気も良く暖かく汗がでる位に、みな真剣に取り組んでいました、ロープの結束名が昔のイメージと違う事も有り

# 竜爪山岳競技会

## 過去最多の参加者に

平成25年度竜爪山岳競技会は、過去最多となる高校男子102名、高校女子22名、一般男子2名の計126名の選手



の後、三本桜下に移動して本計量。その後女子・男子の順でスタートし新道・穂積神社経由で薬師岳山頂までを競った。山岳部のトレーニングの一環として参加する高校も



まじいが見受けられました。限られた時間の中の研修会でしたが、それぞれ学んだ事を、各自また各会にて繰り返し練習をしてくれることをお願いいたします。また研修会にご協力してくださった指導員の方々ありがとうございました。(堀内)

少男	1位	佐野寿浩	富士宮西高
	2位	古谷一希	浜松日体高
	3位	藤田祐馬	浜松工業高
少女	1位	小山紗莉	富士宮西高
	2位	小川茜	富士高校
	3位	伊藤佳子	富士宮西高
成男	1位	志村修	藤枝東高教員
	2位	鈴木和也	浜松日体高教員

学校別男子	1位	浜松日体高
	2位	富士宮西高
	3位	富士東高
学別校女子	1位	富士宮西高
	2位	藤枝東高
	3位	浜松日体高

多くなり、今回は主催者側がゼッケンを準備することができなかった。またゴールでは一度に多くの選手がゴールした時間帯があり、順位は確定しなかったものの正式な時間が計測できない事態が生じ、学校対抗は着順合計に切り替えた。コースが長い

# ボルダリングジャパンカップ

## ドーピングとシヤペロン業務

2月22、23日、ボルダリングジャパンカップが静岡市のクライミングジム「JAM」で開催された。浜松日体の米山秀也、宮西の難波利行の両氏が審判員として要請を受けていたが、大会の直前にドーピングのシヤペロンとして日山協から協力依頼があり、岳連から男女5名が参加した。

シヤペロンとはドーピング検査対象のアスリートに検査の通告をし、アスリートに付き添いながらドーピング検査室まで誘導するスタッフである。業務を行うにあたり、資格要件や遵守事項をよく読み、シヤペロニング手順のレクチャーを受け、これを理解し遵守しますと同意書を提出し業務の開始となる。

検査対象者は日山協が決勝に残った選手から男女各3名を抽選で選ぶが事前に順位で決めておく。決勝終了後順位が確定した段階で、選手に検査対象者であることを通告し、通告時間、シヤペロンの氏名とドーピングについての文書を読んでもらい署名をさせる。未成年の場合は成年の同伴者の同意もとる。水分補給を希望した場合は用意した水を与えるが、その与え方にもルールがあった。ドーピングは選手生命をなく奪うだけでなく、監督、コーチ、トレーナー、管理栄養士など周りの人々の生活に影響を及ぼすため、詳細な規定と遵守事項が決められていた。(木ノ内)

# 公認指導員研修会

## 北アヘルメット着用 富士山携帯トイレなど

1月26日、静岡リハ専門学校で指導員研修会を開催した。公認指導員29名が参加し、コンテ、山行時のヘルメット着用、山でのトイレ問題などのテーマについて研修し指導員相互の理解を深めた。長野県遭対協がヘルメット着用奨励地域として北アなど5地域を指定し、



当該地域に入山するときヘルメットの着用を求めている問題と、静岡県内の山域で着用を推奨する地域はどこかなど、意見を求めた。ヘルメットの着用は岩登りの時との意識が強い

なか、北アの岩稜帯の縦走など着用すべきとの意見。県内の山域でも着用推奨地域はある。今後、指導員会で推奨地域を検討するとして。コンテ登山では、タイトロープの仕方、スタカットとの切り替えのタイミング、富士山でのコンテの是非などの問題が提起された。また、タイトロープの設置法とリーダーのポジションを実際の形を

作って研修した。2人が同時に移動するコンテ登攀では、パートナーが滑落したとき、確実に停止できることが必須で、自信のないときにはスタカットに切り替える判断が重要となる。富士山の夏山期間以外の遭難防止と環境保全の観点から、富士山における適正利用推進協議会では「富士登山における安全確保のためのガイドライン」を策定し公表した。これは3つのルールからなり、万全な準備をしない登山者の登山禁止。「登山計画書」を必ず作

成し提出すること。携帯トイレは持参して利用し排泄物は回収し持ち帰ること求めている。実際に携帯トイレを持参するか、利用するかなどにつき出席者で意見を交わした。自然環境保全などの観点からトイレが閉所されている夏山期間以外では携帯トイレの持参もやむを得ないとの意見が多い中、実際に使用する際には、富士山には隠れる場所がなく、特に女性に抵抗があるのでトイレプースの設置の要望がでた。回収についても登山口に回収ボックスを設



も多かった。今年の冬山は、比較的好天に恵まれたが、元旦は稜線にはガスがかかり強風であった。雪は例年よりやや多かったためか、ラッセルが多く途中で引返したパーティがあった。今年は事故もなく良かった。(滝田)

# 初級レスキュー研修会

## AED、搬送法、ロープ結び等研修

平成25年度 初級山岳レスキュー研修会を3月8日(土)興津生涯学習交流館にて開催し、加盟団体から58名の参加者がありました。午前は、各3グループに別れ静岡市消防局の救急隊員及び山岳警備隊員によるAEDの取扱い方法、負傷者の搬送法(ス

ストック・ザック等を使用した搬送方法やロープ・二人体制等)簡単なロープの結び方などを研修しました。午後の部は、佐藤先生によるテーピングテープの使用法、膝・足首・腰等、実際にテープを使用したの実技を行なった。各自の山行に生かしても

らいたいと思います。(使わなくても良いように!) また、静岡県警探本部山岳救助隊長真田氏より単独行の危険性、基本装備、特に登山届の提出が(家族等に)、実際の救助隊の様子をDVDにて見て、登山計画書の提出がいかに大切か、分かっ

たと思います。研修会に参加されました皆様ありがとうございました。また講師の方々お忙しいところ、ありがとうございました。(堀内)